

に入れた偏固なものに考へて行き居るから、それでは満足は出来ない、吾々は人間であるといふ自覺に依つてこれと戦ふ事になるのである。私の拜察する所では、教育の勅語は國民として完全なる教養を興ふるのみならず、人としても亦完全なる教養を示しになつて居る事が、その文意に在りて明々白々であると信ずるのである、それ故に歴史的に發達したる特殊の道徳と、人類一般の遵奉すべき普遍的共通的美點とを併せ成して、これを國民道徳と申したいのであります。

尙ほこの勅語の解釋に於て、これは全然宗教を認めないものだと解釋する事でありませぬ。無論この勅語に於ては何れの宗教を信ぜよといふ事もありませぬ、又何れの宗教を退けよといふ事もありませぬが、この全體の聖旨のある所を窺ひ、且つ又一つの勅語を解釋するに方つては他の陛下の御詔勅御製我が過去の文化、皇祖皇宗の遺訓、之等を併せ見てこの勅語の聖旨を正解するは當然の事であらうと存じます。文章簡であるからその意味の鮮明を缺く事のあるのは已むを得ないのである、その場合に

此に現れて居ないものは皆用ゐないとするならば、非常に日本の文化を減殺する事に相成るのである。勅語の文字に現れざる事は皆捨て、も宜いものぢやと考へて居る人もあるのである、さうしてこれには宗教を信ぜよと明言せられた事が無い、だから宗教はいらなといふ様な觀念を持つて居る、それはその淵源する所古いのでありまして、歴代の文部大臣の意見としては、この勅語と宗教との關係を如何にすべきかといふ大事な問題に就て、明確になつて居りませぬ、それ故に宗教に對しては教育者の態度は實に不鮮明で、寧ろ宗教を拒斥するとか輕蔑するといふ態度であるかと思ふ。今は輕蔑といふ言葉を嫌つて、さういふ事は無いと言ひ譯をして居る、けれども宗教と教育との關係は如何にあるべきかとの鮮明なる意識を有つて居る者は極めて少いのである、それは言譯としてさう言うて置くが、腹の中は無宗教の者が大多數を占めて居るのである。若くは宗教を邪魔にする位の考へを有つて居る。それとはなしに佛様ナンといふものは昔言つたものであるとか、死んだ者に魂があるナンといふ事は迷信だ